

二〇二六年度意見交換会同行記

実質事業量の確保訴え、求められる柔軟な働き方

株式会社日刊建設通信新聞社 編集局編集部長 赤島 晃彦 *Akihiko Akashima*

日本建設業連合会（日建連）と国土交通省各地方整備局（地整）などの共催による二〇二六年度の「公共工事の諸課題に関する意見交換会」は、五月十二日の関東地区を皮切りにスタートし、六月十日の九州地区で全日程を終えた。約一カ月の間に、日建連土木本部の幹部らが全国の主要九都市を順次回り、都道府県・政令市や独立行政法人、高速道路会社などを含む公共発注機関と議論を重ね、鉄道や電力などの民間土木発注者もオブザーバーとして参加し、公共土木分野における先進的な取組みに触れた。足元の中東情勢による影響も含め、資材価格の高騰や労務費の上昇などを背景とする実質事業量の減少が日増しに深刻化するなか、日建連は、当初予算の増額をはじめとする公共事業予算の規模拡大の必要性を説

いて回った。また、適用から二年が経過した時間外労働上限規制の遵守徹底や年々過酷さが増す猛暑対策の充実など、働き方改革の進化も追求した。

日建連は、本年度の意見交換会に当たり、「公共事業予算の規模の拡大と入札・契約制度の改善」「働き方改革の推進」時間外労働上限規制遵守の課題と取組み」「生産性向上（新技術・新工法の活用促進、規格化の推進）」「担い手の確保」という四つのテーマを設定。会員企業が施工する約一、七〇〇現場のアンケート結果などを示しながら、改善提案や要望を行った。

五月十一日に都内で開催された定時総会を経て始動した日建連の新執行体制。押味至一会長からバトンを受け、初めて土木本部長として意見交換会に臨んだ蓮輪賢治

副会長は、「切迫する大規模地震や激甚化・頻発化する自然災害による被害を軽減・回避するため、インフラ老朽化対策を含む災害に強い国土づくりの重要性と緊急性が高まっている。また、強い地域経済を支える幹線道路ネットワークをはじめとする社会資本の整備や維持管理など、我々建設業が担う役割は大変大きいと実感している」と強調する一方、「建設業界の担い手は、高齢化とともに減少傾向が続いている。業界を挙げて若年層を中心とした将来の担い手確保に取り組んでいるが、十分な成果には結びついておらず、現状は外国人技能者の増加によって何とか維持している状況だ」と指摘し、働き方改革や生産性向上、処遇改善を更に推進する必要性を訴えた。

「二十五補正二十十六当初」超が最低水準

第一の議題は、公共事業予算の規模拡大だった。日建連は、政府当初予算が長らく横ばいで推移するなか、建設工事費デフレーターが大きく上昇して実質的な事業量が減少していることや、国交省直轄WTO工事の件数が顕著に減少している事実を提示した。地整側も、価格高騰の影響を踏まえて予算規模を拡大する必要があると認識を合わせた。蓮輪本部長は、例年以上の過密日程となった意見交換会と並行する形で、押味会長らとともに、政府・与党幹部に対する中央での要望活動も展開し、二十七年度は「二十五年度補正予算二十十六年度当初予算」を上回る予算確保を最低水準として求めた。

時間外労働規制は、会員各社とも最低限の特例条項はクリアできているものの、他産業との人材獲得競争も含めた担い手の確保・定着という観点からは、建設業も原則ルールの遵守を実現しなければならぬ。ただ、会員調査によると、国の道路・河川工事のうちの四八％が原則ルールに抵触しており、前年

の三七％から悪化してしまった。日建連は、適正な工期の設定や設計図書の精度向上、書類の削減・簡素化などを一層推進するよう働き掛け

危険な夏、猛暑対策も待ったなし

今年は猛暑対策も大きなテーマとなった。日建連は、熱中症対策費用を現場環境改善費の一〇〇％まで設計変更可能とする新制度について、対象外となっている既契約工事への適用拡大を要望した。多くの地整は、夏季休工を可能とする発注方式の試行を表明した。猛暑期間・時間の作業回避や人力作業の削減

など、労働環境改善につながる提案を評価する技術提案評価型の実施を打ち出した地整もあった。長らく続く意見交換会だが、「回を重ねるごとに、自治体や関係発注機関の施策も進展し、だんだん国に追い付いてきた」とある幹部は語る。「最も効果的な取組みが民間工事も含めて横展開されることを期待する」という蓮輪本部長の思いが現場レベルで一層加速すれば、給与が良く・休暇が取れ・希望が持て・かつこいい「新4K」により近づくはずだ。

最後に、意見交換会の同行取材もかれこれ五年目となった。これも気候変動の影響なのか、初めて期間中に台風が襲来し、一時はどうなることかと右往左往したが、無事、全地区開催されて安堵している。改めて、今年も取材活動に多大なご高配とご協力をいただいた日建連本部・支部、各地整の役職員の皆様



初めて土木本部トップとして意見交換会に臨んだ蓮輪本部長



最終回となった九州地区の会合